

－スイフトスタイルの楽しみ方－

スイフトスタイルの楽しみ方



BY TATSUMI KISARAGI



SWIFT STYLE

ボディー：5ドア
機種名：STYLE
駆動方式：FF
車名・型式：スズキ・DBA-ZC71S
トランスミッション：CVT
以下略

値段は 2009 年時に新車購入時に 2WD CVT（このタイプに 4WD はあっても 5MT は存在しない）メーカー希望小売価格で 1,333,500 円、実売ではアルミホイール等それなりの装備が付いて 1,500,000 円で購入したという記録が残っています。ちなみにこの時期はエコカー減税の他に、エコカー補助金という制度があって、ミッションが故障して、廃車だと普通でしたら全くお金にならない 21 年落ちのセルボが 250,000 円という値段で実質下取りされたという、今では考えられない時代でした。

（参考までにですが、現在の中古相場は 500,000 円程度で買えます）

私はこの車に乗り換えてもうすぐ 10 年、その前に乗っていたセルボから数えますと 20 年以上（車では）スズキの車だけに乗っています。そしてセルボが壊れて部品が入手不可能になり、仕方なく手放した様に、この車も動かなくなるまで乗り続ける事でしょうし、それだけ私の感性と合っている車だと自負しています。

ただし、これは「スズキ車」がトヨタ、ホンダ等のメーカーよりも「良い」という事では決してありません。同年代に発売された他メーカーの車にも乗った事がありますが、「このスイッチがここにあったら...」という所に必ずあるのがトヨタ、乗った瞬間ワクワクするのがホンダ、（当時）一世代前の雰囲気とするマツダ、（注：ニッサンは乗ってないので書きようがありませんので省略）と、他社にもそれなりに培ってきたノウハウが詰め込まれています。そして同じ様な値段でしたら、RPG のポイントの振り分けではありませんが、どこに力を入れるかに尽きると思います。それを見極めて、そのメーカーの車を購入するのでしたら何の問題も無い事でしょう。

そこで本題なのですが、日本で一番売れているトヨタの様な車を想像して、スズキの車を購入しますと、必ずと言って良い程「えっ！何これ！」という事に少なからず遭遇します。（2009 年当時の話です。今は改良されているのかも知れませんが）なので、その辺を次のページから紹介していきたいと思います。（注：全て実体験です）

－スイフトスタイルの楽しみ方－

画像は私の車のフロントアンダーです。右側にある傷は坂で付いたモノなのでここでは除外します。中央から左に透明な樹脂の様なモノが貼り付けられているのが見えますが、これはフロントアンダーの「ちょっとした段差」や「踏切」等での傷を防ぐ為のものです。

ちなみに、わたしの車は特殊なエアロ類は付いておらず、最低地上高が145cmあるノーマル仕様です。それにも関わらず、ちょっとした段差で揺れようものなら簡単に擦りまくります。

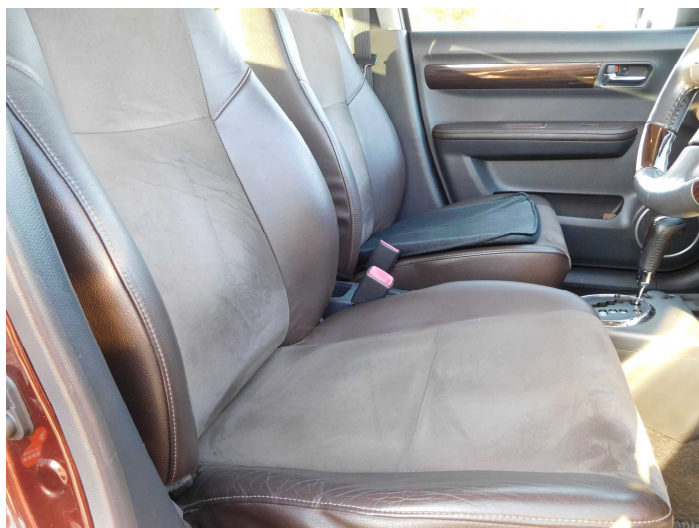


理由は、他のメーカーに比べて前輪タイヤよりも前に出ている部分が長く、更にフロントサスが柔らかいからだと思われます。スイフトは私が最初乗った時、車体剛性の強さに「まるで鉄板の上に乗ってる感じ」に思えた位、車のねじれが他メーカーに比べてありません。これはヨーロッパの石畳の上を想定してるからかもしれませんが、詳しくは知りませんので割愛します。ただし、そんな事を言っても、フロントを擦る事には変わりありませんので、頻繁に部品を買う事が出来る人以外は何らかの対策が必要となります。画像の樹脂はドア等に付けるアクセサリ部品を流用したもので、これだけでもかなり傷を予防出来ます。ただ、アンダーが擦れやすい事には変わりありませんので、私はもう一つの対策をしています。

簡単にして単純な対策は「空気圧を上げる」事です。私のスイフトは前後輪共に 2.3 なのですが、これを 2.7 位まで上げる事によって、アンダーの擦れはほぼ無くなります。更に、アクセルを踏んだ際のレスポンスは上がりますし、燃費も上がります。と、一見良い所だらけの様にも思えますが、当然ながらメーカー指定の空気圧にはそれなりの意味があります。まずはタイヤの減りが当然ながら早くなります。更に減りが早いという事は、雨の時の制動距離が伸びて仕舞う事にも繋がります。その為、なるべく同一メーカーのタイヤを装着して、減りの経緯を体感で覚えるのが無難だったりします。私はダングロップが好きなので、ずっと一貫してそのメーカーのタイヤを履き続けてますね。

と、ここから本題の中の核心に迫るのですが、車体剛性が強い、サスが柔らかい、タイヤの空気圧を上げる... この組み合わせで乗っていると、スズキ車に乗っている方が必ずと言って良い程体験する事を、より一層頻繁に体験する事になります。それは大抵の方が大なり小なり購入時から鳴りまくる「スズキのお家芸？」のビビリ音なのですが、まずはそれを写真付きで説明します。

ースイフトスタイルの楽しみ方ー



最初は「座席」です。車体剛性が強く、空気圧を上げている為、カーブを曲がる際に柔らかいサスは減衰するまで小刻みに揺れます。本当でしたらその歪みを車体なりで逃がせれば良いのですが、車体剛性が高いという事は、当然ながら弱い部分に負荷が集中します。サスもその影響を受けているのかも知れませんが、体感出来る部分ではシートのレール部分に負荷がかかり、やがて前後に移動するストッパーの部分が曲がってきて「キシギシ」という音が鳴りやすくなります。対策はレール前後のネジを緩めて鳴らない位置に

ずらしたり、シートを外してストッパー部分をハンマーで叩いてやれば、しばらくの間は鳴らなくなります。・・・毎日通勤に乗ったとして3ヶ月位でしょうかね。それと余談ですが、スーとの材質は外周が合皮で中央部はスエードです。個人的には頻繁に使ってクリーニングにも出せない様な部分にスエードを使うというのはいかがなものかと思うのですが・・・雨で濡れたまま車に乗る事もあるのにね・・・。



次にですがダッシュボードからも頻繁になります。はめ込みの部分が膨張や収縮する時期(エアコンを使う時期)に頻繁に鳴ります。ただし、毎回鳴ってるかというところでも無く、気付くと止んでいたりするのが厄介なんですけどね。対策は裏側の部分にクッション材を入れてみるとか、はめ込み部にスポンジをかませるとか、シリコン等の潤滑剤を隙間に浸透させる位ですかね・・・昔でしたら徹底的にバラすのですが、今の車はエアバッグがあるのでうっかり作動させてしまうと「死亡確認」になりかねませんから、それな

りの対策でお茶を濁してます。

－スイフトスタイルの楽しみ方－



助手席の小物入れ部分も良く鳴る部分だったりします。中央部に見えるゴムが緩いのでガタが出やすいのです。これはゴムを劣化させない様にするとか間に何か噛ませてきつく締まるようにすれば大丈夫な様な気がします。

私の車では最初は頻繁に鳴っていたのですが小さいゴム（シール付き）を間に噛ませたりしてましたら、いつの間にか鳴らなくなりました。ただ、他の部分が鳴りまくるので、それに気にならなくなっただけかも知れません。



フロントガラスの部分も、高速に乗ると気流の関係か良く鳴ります窓をほんの少し開けるだけで止まりますからまずガラスとゴムの間で鳴ってるのは間違いないのですが、ゴムパッキンを交換するとか、ガラスとゴムの間に何かスポンジでも噛ませるとかしないダメかも知れません。これは高速に乗らなければ発生しませんので、まだマシな方なんですけどね。

他にはドアにはめ込み式の板があるのですが、そこも頻繁に鳴りますし、後部座席を車体に固定する金具部分でも最初は鳴りまくりました。（ここだけ

は購入時からでしたので買った所で対処して貰いました）

この他にも、車体のあちこちから、時期によってなったり鳴らなかつたりするビビリ音が発生しますので、それらが気になって仕方が無いという方は、迷わず他のメーカーの車を購入された方が無難だと思います。

私？私は乗ってる最中は必ず音楽を聴いてますので、それで大分緩和されていますよ。

さて次は、「SWIFT STYLE」はカタログに「プレミアムコンパクトという提案。格別のエレガンスを印象付ける大人の一大です」と書かれているのですが、今まで書いたビビリ音の他にも、乗ってる私が「なんちゃってプレミアム」と言う位、スズキの「工業製品は10年」を地でいく車であるという事をやはり画像付きで紹介します。

ースイフトスタイルの楽しみ方ー



まずは、スズキは塗装が弱いのです。自動洗車機に入れようものなら、恐ろしい現実が待っているかも知れません。(買って10年近く経ちますが、未だにスイフトを自動洗車機を使った事は無かったりします)

それと、私は走り屋でも何でも無いのですが、車体には無数の塗装の剥げた部分があったりします。ですから、タッチペンは常に用意して、手洗い洗車をした後に確認して補修するのが日課になってたりします。もう一度書きますがこれが「プレミ

ムコンパクト」とスズキのカタログに書かれている車の塗装です。



ムコンパクト」ですが、本革を使うのは良いのですが、9年も経つと皮にコートしている部分が剥がれてきて、画像のような残念な状態になってしまいます

対策は新しく同じモノを買うか、安価な出来のノーマル車のシフトノブを買うか、全体的にコートを剥がして使うかのどれかになります。

私はオークションで新品同様の同じシフトノブを入手しました。

ースイフトスタイルの楽しみ方ー



シフトノブの他に、ハンドルにも革製品が使われています。

画像を見て頂ければ判る通りの状態なのですが8年位までは気付かなかったんですけどね。

ちなみにハンドルもヤフオクで入手しましたので、状態が更に悪くなったら交換しようとは思ってます。ただ、今のハンドルにはエアバッグが付いていますので、個人でやる場合には細心の注意を払う必要があります。という事で

定期検査や車検の時に追加でやってもらうのが妥当かな・・・と思ってます。



これはドアに付属するパーツです。ノーマル車が黒樹脂の成型品なのに対して、茶色にして高級感を出そうとしたのですが、頻繁に使う部分に剥がれやすい処理を施したものを使得ってしまうと、こんなになってしまうという良い見本です。更に言ってしまうと、このパーツは「対策品」なんですね。最初のパーツは爪や少し固いものがぶつかるだけで、「ピロピロピロ～」と簡単に剥がれまくる代物でした。それを一回無償交換して貰って、更に対策品を無償で

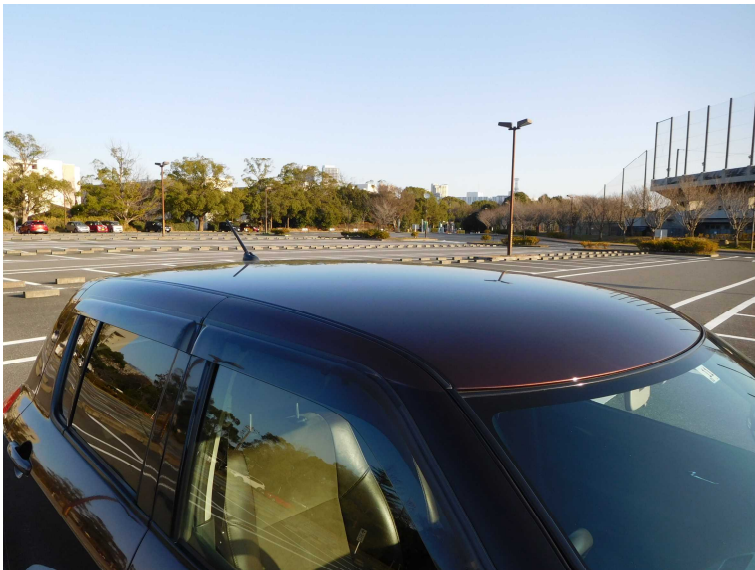
交換して貰って・・・この有様です。これなら処理しない製品にするか、処理をするにしても下地との食いつきが良い代物にするとかにしないと・・・大事な事なのでもう一回書きますが「プレミアムコンパクト」の車です。これも予備品を左右一式買ってます。

－スイフトスタイルの楽しみ方－



次は運転席左側にある「左足」の置き場のパーツなのですが、当然ながらその隙間に砂や石が入るので、外して掃除をします。

これは車体に右写真の様な部品ではめ込んでいるだけなのですが、そこの部分がどう見ても「取り外しをしてたら割れるよなあ・・・」という構造になってますので、案の定割れました。それで現在は割れた部分を接着剤で固めて、画像には写ってませんが留め具の下にある空洞部分には充填物を入れて固めました。これで当分は大丈夫なのですが、これもやはり予備品を入手してます。手に入る時に買っておくのは、同じ車を長く乗る場合には絶対にやっておかなければならない事ですから。



他にも色々あるのですが、最後に当時乗ってる多くの方が SNS 等
に書き込んでいた「雨が降ると屋根
に当たる雨音が、まるでトタン
屋根に当たる様な安っぽい音がす
る」という事を挙げておきます。

これは好みの問題だとは思って
ますが、皆さんその音以前に各部
から色々な音が出まくっていたの
に気付かなかったんですかね。

今のスズキ車がどうなのかは、
短時間しか乗ってないので何とも
言えませんが、それなりの対策が

されている事を願ってやみませんです。

－スィフトスタイルの楽しみ方－



ここまで色々と書きましたが、ここまで色々な問題が噴出しているのなら買い換えれば？という意見も当然ながらあるかと思います。

その意見はもっともな話なのですが、私は「車を自分の思い通りに運転する事が出来て、走ると目の前に走行ルートが見える様な気がする」という境地になりまでには3年から5年はかかると思っています。

今は私も今の車の挙動に慣れましたし。車も私の運転になれた事でしょう。つまり、本当の意味で「手足と鳴って運転出来る」状態にあるというのに、また新しい車に乗り換え

るとするのは、その車の性格を見極めて自分の体を慣らしていく事になりますから、出来るなら今の車を人生最後の車にしたいと思ってるんですね。

あと、私が乗ってるスィフトは、言ってしまえば「微ブス」なんですよ。スタイルもそんなに洗練されてる訳では無いですし、どこかやぼったい所もあるし、今まで書いた様な欠点もあるのですが、それを「我慢出来ない」と思うか「仕方ないなあ・・・」と思うかで違うんですよ。私は車を消耗品では無く、趣味の製品と考えてますので、それらのトラブル？に呆れながらも、出来る範囲で対策をして、一緒に悩み、苦しみ、楽しんでいきたいと思ってるんですね。そうすると不思議なもので、車もそれに答えてくれる気がします。

あと、この時代のCVTは回転数と速度の乖離が大きくて違和感があるという話をよく聞きましたが、MT、ATにそれなりの乗り方があるのですから、CVTも一番効率の良い乗り方を見付けなければならないのに、闇雲にアクセルを踏むだけというのが当時の風潮でした。今は違いますが、この当時のCVTはある程度まで踏み込んだらMTのギアチェンジの様一端アクセルを抜いてやると、スムーズに加速するんですけどね。あとは、レーキでは無くLや2Lにシフトを入れて減速するとかすれば、その後の加速はかなり改善されるのですが、そんな工夫もせずに「CVTは使えない」と言い切ってしまうのが当時の風潮でした。その状態のものを限界まで使い切ってそう言うならまだしもなんですけどね。

と、こんな事を事前に知った上で「スズキ車」を選ぶのでしたら、後で公開する事も無いでしょうし、数年で乗り換えたり、メンテナンスフリーで乗りたいなら、他のメーカーを選ぶ事をお奨めします。買って公開するのは買われた車も悲しい事ですからね。

－スイフトスタイルの楽しみ方－

最後に、スイフトスタイルでドライブの途中に撮影した画像を掲載してます。
ここまで読んで下さりまして。どうもありがとうございました。



—スィフトスタイルの楽しみ方—



ースイフトスタイルの楽しみ方ー



発行:はまあんクラブ
発行日:2018年12月31日
発行人:如月辰巳
ブログ:サイクル名か名前で探して下さい

* この本は車を趣味として楽しんでいる方に捧げます *